

# 「土山地域田舎の地域づくりフォーラム」開催

## 地域で共に生きる～ご近所福祉でまちづくり～



▲「まずは知ることから」あいの土山文化ホールにて、土山をあえて「田舎」と名付け、お互い様・支え合いについて学びました

# 土山がニコリ

土山地域ご近所福祉推進協議会発行  
創刊号  
平成30年11月

平成30年7月15日(日)に「あいの土山文化ホール」で福祉フォーラムを開催しました。フォーラムには、福祉に関心のある方、福祉活動に携わっている方、ボランティア活動をしている方、福祉作業所の皆さん、そして民生委員児童委員の方々など250名の多くのご参加をいただきました。

本フォーラムは、甲賀市の地域福祉活動計画に基づき、平成29年度に発足した「土山地域ご近所福祉推進協議会」が、甲賀市社会福祉協議会、土山町民生委員児童委員協議会の協力を得て、その広報啓発活動の一環として実施いたしました。土山地域は、この30年間で約20割の人口減、高齢化率も学区によっては40割を超え地域のコミュニケーションが懸念される状態にきております。人生100年時代を迎え、今後、さらに少子高齢化が進んでいくことから、私たちは、「我が事」として、一人ひとりが自分の暮らす地域に、目を向け、支え合いを行うことができる仕組みを作り、地域で共に生きることを考える機会にしたいと思ひ開催したものです。



▲プレゼンターのお二人

フォーラムの前半、大谷大学社会学部志藤修史教授より「土山を進めるご近所福祉」と題して、地域課題を踏まえながら、土山地域の福祉のあり方等について基調講演をしていただきました。後半には、土山地域ご近所福祉推進協議会の中島仁史会長より「ご近所福祉活動報告」と題して、ご近所福祉活動の必要性、協議会について、の説明と、吉田勇氏より「生活支援ボランティアつなぎの



▲土山地域ご近所福祉推進協議会キャラクター「ニコリ」

また、受付ではつちやま福祉作業所によるコーヒーのおもてなしがありました。多くの住民の皆様にご来場いただき、盛大に開催することができました。ご協力ありがとうございました。



▲つちやま福祉作業所のコーヒー販売コーナー

## 地域が元気になるために

### 自分ができることを出し合って みんなで助け合おう

土山地域ご近所福祉推進協議会 会長 中島 仁史

支援が必要な高齢者がどんどん増えるなかで、支える世代は減る一方であり行政や福祉関係機関、またボランティアの取り組みだけでは課題の解決に限界が出てまいりました。そこで福祉のあり方を見直す必要が生まれ、地域の中でお互いが見守りあい、支えあい、できることは自分たちで解決していくという相互扶助の気持ちに立ち返り、地域だけでは解決できない問題は、行政側に繋げていくという総合的なネットワークづくりが求められます。行政側

共済社会の実現

昨今、一人暮らしの高齢者や認知症高齢者の増加、引きこもりなど地域には様々な生活課題が山積しています。さらに社会が複雑化しているなか、介護と育児の問題を同時に抱える人や80代の親と50代の子が社会から孤立する「8050問題」など問題が重層化しています。また



も従来の縦割りによる対応ではなく教育、福祉、医療などあらゆる部門が一体になって問題解決にあたるというものです。国はこれを「我が事・丸ごと」による「地域共済社会」の実現と言っています。

甲賀市では、昨年度、甲賀市社会福祉協議会が、市民とともに「第2次甲賀市地域福祉活動計画」を策定しました。地域福祉活動計画では、4つのプロジェクトをネットワークで推し進め「だれもが住み慣れた地域の中で共に生きる」地域社会を実現しようとするものです。そして、各町で設立された市民でつくる「ご近所福祉推進協議会」が地域の特性にそって、このプロジェクトを推進する

「ご近所福祉推進協議会」が、甲賀市社会福祉協議会、土山町民生委員児童委員協議会の協力を得て、その広報啓発活動の一環として実施いたしました。土山地域は、この30年間で約20割の人口減、高齢化率も学区によっては40割を超え地域のコミュニケーションが懸念される状態にきております。人生100年時代を迎え、今後、さらに少子高齢化が進んでいくことから、私たちは、「我が事」として、一人ひとりが自分の暮らす地域に、目を向け、支え合いを行うことができる仕組みを作り、地域で共に生きることを考える機会にしたいと思ひ開催したものです。



▲毎月の会議の様子

「土山地域ご近所福祉推進協議会」が活動開始

土山地域ご近所福祉推進協議会は、昨年度の6月に立ち上がり、鮎河、山内、土山、大野からの地域の代表、地域包括支援センター、福祉関係団体からの9名の委員によって構成されています。土山地域では、土山地域ご近所福祉協議会が、市民とともに「第2次甲賀市地域福祉活動計画」を策定しました。地域福祉活動計画では、4つのプロジェクトをネットワークで推し進め「だれもが住み慣れた地域の中で共に生きる」地域社会を実現しようとするものです。そして、各町で設立された市民でつくる「ご近所福祉推進協議会」が地域の特性にそって、このプロジェクトを推進する

### 土山地域における暮らしの課題

- 【共通】
  - 交通が不便（買い物、通院）
  - 若い人の働く場所が少ない
  - 空き家が増えてきている
  - 健康問題
  - 移動手段
  - 認知症
- 【高齢者】
  - 高齢化が進んでいる
- 【子ども】
  - 少子化
  - 遊び場がない
- 【障がい者】
  - 子ども同士、親同士のかかわり不足
  - 両親の高齢化
  - グループホームがない
  - 障がい者の親同士のつながりが少ない
- 【引きこもり】
  - 潜在化
  - SOSが出せない
  - 相談につながらない（つなげられない）

だれもが自分らしく暮らせる地域づくり  
早くから相談できるネットワークづくり

※情報発信（広報発行） ※啓発（フォーラム開催）  
※連携（企業・団体 ボランティアセンター等） ※支援策の調査検討

互いの違いを認め合い、命や人権を大切に、対等な立場で見守り支えあえる地域社会の実現をめざしたいと考えています。

フォーラム参加者に聞きました  
一緒に取り組めそうなものは何？

見守り・近隣への声掛け	50人
防災の取り組み	27人
生活に関する支援(ゴミ出し、掃除、草引き、お料理、日用大工等)	21人
福祉の啓発	15人
介護予防や健康づくり	21人
子守り・子育て	7人
移動のお手伝い	13人
身近な居場所づくり(サロン等)	39人
その他のボランティア活動	6人



ボランティアさんによる生け花で会場が華やかに



イラスト: 7987262

**見守り・支えあい・発見・解決プロジェクト**  
**「つながりの輪」**

生活支援ボランティア「つながりの輪」は、ちよとした暮らしの困りごとをお手伝いするボランティアです。平成29年5月から14名(現在は24名です)で立ち上がり、月に3〜4件の依頼を受けます。依頼の内容は、



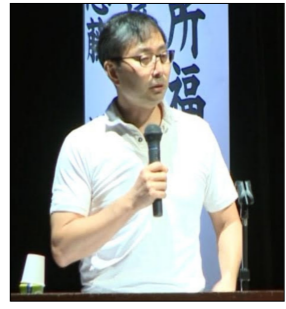
**「つながりの輪」**

**2部**  
**土山における実践報告**

内容は、電球の交換、窓ふき、草引き、草刈り、日曜大工、不用品の処分等で1時間程度の活動になります。依頼を受けると、まずは、下見に行き、その際、危険な作業であったり、依頼者の営利目的につながる依頼でないか、専門機関でお願いしてもらったほうがいいかの判断を定例会で話し合います。1時間の利用料は300円。活動をしたい方は、何かあったことは、何と申しても依頼者から「助かった」「ありがとう」と言ってもらえることです。また、注意することとして、すべてをやってしまうのではなく、依頼者とお話をしながら「一緒に」することも気をつけています。また、定例会を設け、振り返りをして

【プレゼンターより】活動の存在を知っていただき、大変有意義であったと思います。高齢化が進み、各種社会福祉制度も充実してきていますが、その制度のほかに、普段の生活に困っている人もいます。そうした人たちに誰かがちょっとお手伝いをすることで、人と人のつながり、社会とのつながり、助け合いが始まります。これからも楽しんでいきたいと思っております。

内容は、電球の交換、窓ふき、草引き、草刈り、日曜大工、不用品の処分等で1時間程度の活動になります。依頼を受けると、まずは、下見に行き、その際、危険な作業であったり、依頼者の営利目的につながる依頼でないか、専門機関でお願いしてもらったほうがいいかの判断を定例会で話し合います。1時間の利用料は300円。活動をしたい方は、何かあったことは、何と申しても依頼者から「助かった」「ありがとう」と言ってもらえることです。また、注意することとして、すべてをやってしまうのではなく、依頼者とお話をしながら「一緒に」することも気をつけています。また、定例会を設け、振り返りをして



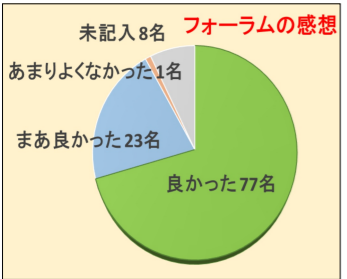
▲志藤先生による基調講演の様子

大谷大学社会学部 志藤教授の基調講演では、まず、近所福祉のまちづくりを進める4つのプロジェクトについて説明がありました。その後、甲賀市市民アンケートに基づき、土山地域の課題を踏まえながら、大切なことを教示いただきました。

**1部 基調講演**  
**土山の助け合いで大切なこと**

「一人暮らしの方が高齢者夫婦にとって、日頃頼りにしているのは家族であるが、実際は、電話をしたり、訪問の頻度は1〜2カ月に1回程度で、一方、近所訪問は、毎日であったり、週1回程度が多かった。合は近所の人頼りがちになっている」との現状があり、もし災害等起きた時、自然と助け合いができるように、日々の生活の中で「話をすること」「顔をみること」「お互いを尊敬しあえる(出番と役割がある)」を意識しておくことが大切とのことでした。これを「ぬか漬談義」と言うそうです。

【アンケート結果(暮らしの声)から見えてきたこと】



**ご意見いただきました**

- ・何らかの活動に参加することで、自分も家族も地域につながれたらと思います
- ・他人事にならないように福祉の認識を持つことが大切
- ・昔からあるつきあいの良いところを残していきたい

**地域の特性に応じた地域づくり**  
本協議会では、地域包括ケア体制の整備として、住民の暮らし、生活基盤をどう持続性のあるものにするかを協議しています。支える人、支えられる人、関係なく、誰もが社会参加や役割を果たすことで元気づけ合います。助け合い、つながり、思いやり、自分たちの居場所や役割づくりも検討しています。

**地域の居場所づくりプロジェクト**  
**「おいでおいでサロン」**



▲つながりの輪による作業

「ヒマやったらおいで」「行くところなかったらおいで」ということ、このサロンは始まりました。作業所などがお休みのときに、家にいてもつまらない、することも多い、そんな人たち向けのサロンです。ここに来たら、気楽にゲームやクイズ、おしゃべりがあいい、自分が居られる場所になっています。毎月30人くらいが集まり賑やかにやっています。

【プレゼンターより】このサロンは皆さんの善意で成り立っています。何か手伝おうか、何か持っていくか、何か話相手になろうか、皆と友達になろうか、という気持ちを持って来ています。でもそれは決して人に押しつけている、何かをしてやっている、何かをうんぬんしている、自分を楽しんでいる、誰かに会えるから、という気持ちで

活動を根付かせる上で大切なこと  
地域で活動を根付かせるためには、チラシを配ったり、口コミを行うなど情報の発信と活動の良さなどの共有をして、それを楽しみながら行えることもっと良いということでした。

**地域で暮らし続けるための生活支援って？**

**対象** すべての住民  
**めざすもの** 社会参加・元気・楽しさ・心地よさ  
**活動** 居場所・つどい 支えあい・助けあい

ホットするね

**【発行元】**  
土山地域近所福祉推進協議会

**【お問い合わせ先】**  
甲賀市社会福祉協議会  
土山地域福祉活動センター  
Tel 0748-66-2001 Fax 0748-66-2004  
〒528-0211 甲賀市土山町北土山2058

「つながりの輪」は、ちよとした暮らしの困りごとをお手伝いするボランティアです。平成29年5月から14名(現在は24名です)で立ち上がり、月に3〜4件の依頼を受けます。依頼の内容は、生活に関する支援(ゴミ出し、掃除、草引き、お料理、日用大工等)福祉の啓発介護予防や健康づくり子守り・子育て移動のお手伝い身近な居場所づくり(サロン等)その他のボランティア活動



▲おいでおいでサロンの仲間

皆さんが来てくれます。運営資金が苦しいという話を厚顔にもカシパをお願いしたところ、帰りがけに多くの方々が協力してくださいました。思っていた以上の金額でたいへん助かります。この場を借りて御礼を申し上げます。今後も体力と気力が続く間は、このサロンを続けていこうと思っております。

代表 鵜飼 章尾

- ご近所福祉のまちづくりを進める4つのプロジェクト**
- 1、見守り・支えあい・発見・解決プロジェクト
  - 2、地域の居場所(たまり場)づくりプロジェクト
  - 3、ふ・く・しネットワークプロジェクト
  - 4、災害にも強い地域づくりプロジェクト